

## ○ 公園整備計画

### 1. 施設整備計画

#### (1) 園路の検討

施設計画図を基に、保全活動参加者と共に現地確認を行い、主園路や副園路の一部見直しならびに保全活動による整備を行った。

##### ① 尾根筋の主園路

- ・ 現況の枯れたマツ等の枯損木を現地確認し伐採を行った。
- ・ 主園路の幅員は、2.0m以下を基本としメインの入口から分岐までの区間は 3.0mとする方針を今後検討するものとした。
- ・ 尾根筋の主園路は、管理用車両の通行とユニバーサルデザインに配慮し、自然色アスファルト等の舗装とする。

##### ② 谷筋の主園路

- ・ 谷筋から大野池に至る区間の現地確認と保全活動による草刈等の整備を行った。
- ・ 幅員は 2.0m以下を基本とし、管理用車両の通行と園路勾配に配慮した砂利舗装等の舗装とする。

##### ③ 西側草地の主園路

- ・ ルートを市道側に寄せる見直しを行った。

##### ④ 副園路

- ・ スミレの小路から尾根筋に至る副園路のルートの見直しを行った。

#### (2) 諸施設の検討

施設計画図を基に、広場、あずまや、トイレ等の位置の確認と、展望ポイント（展望広場）の検討を行った。

##### ① 展望広場

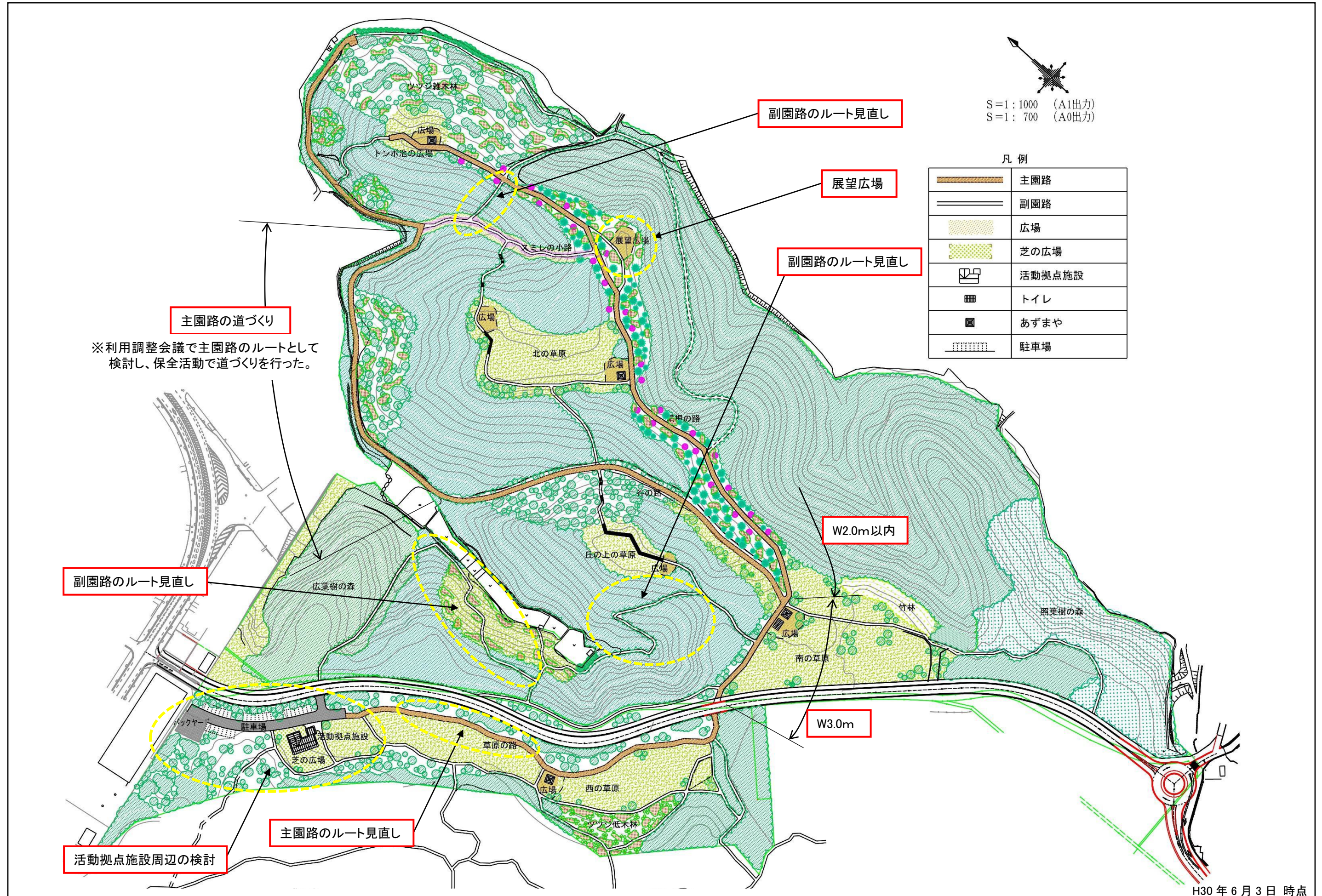
- ・ 尾根筋の主園路沿いに、展望を目的とする広場を計画した。
- ・ 展望広場にはあずまや等の休憩施設を検討するものとした。

##### ② 活動拠点施設周辺

- ・ 駐車場、バックヤード等の配置と、現況樹林（アラカシ林）の活用について検討した。



は平成 29 年度に検討または保全活動を行った箇所





≪基本方針≫ <ul style="list-style-type: none"> <li>・現況山道の活用：現況の自然環境保全、環境負荷の軽減に配慮して、整備する園路は現況の山道を活用することを基本とする。</li> <li>・現況山道の整理：園路として活用しない現況の道については、自然環境復元に配慮して廃止、立ち入り禁止を明確にする。</li> <li>・周遊性の確保：公園利用を考慮して、園路は出来る限り周遊利用できるルート設定とする。</li> </ul>			
種別	利用イメージ	整備の具体方針	整備イメージ
主園路	○日常利用：憩い、散策、ジョギング、自然体験（遠足）など 【樹林の中の緑や花木を楽しむ】 ・雑木林の中や、ヤマザクラ、ヤマツツジ、モチツツジ等の花木を眺めるなど信太山の風景を楽しむ。 【池を眺める】 ・尾根筋の道から池を眺め、小鳥のさえずり、風になびく葉っぱの音、落葉を踏む音などで自然を感じる。 【草原などで虫の観察】 ・チョウやトンボ、バッタやカマキリなどの虫の観察を楽しむ。 ・学校遠足などでたくさんの子どもたちが遊び、楽しむ。	○公園の日常利用に対応する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインの園路</li> <li>・車椅子利用に配慮した舗装構造</li> <li>・利用者のすれ違いができる</li> <li>・平坦、緩勾配で段差がなく、凹凸や水みちになり難い</li> </ul> ○管理車両等の通行に対応する <ul style="list-style-type: none"> <li>・必用幅員：2.0m～3.0m</li> <li>・管理用車両が通行できる耐圧構造の舗装断面とする</li> </ul>	 <p>園路 2.0～3.0m 耐圧路盤（砕石等）</p>  <p>自然色アスファルト舗</p>  <p>砕石舗装</p> <p>撮影場所：泉佐野丘陵緑地</p>
副園路	○日常利用：主園路の利用に加えて、自然観察、環境学習、保全活動など 【自然を感じ楽しむ】 ・信太山の特徴的な里山環境や、湿原、ツツジ林、照葉樹林などの自然環境を巡る。合わせて、動植物などについて、学び、楽しむ。 【貴重な湿原性植物の観察】 ・湿生地に生育する貴重な湿原性植物を観察し、信太山の貴重な自然環境について学ぶ。 【保全活動（草刈、間伐、道づくりなど）に参加】 ・山野草の育成やツツジ林の保全により、自然観察を楽しめるよう、草刈、道づくりなどの保全活動に参加する。  ※副園路については、散策やジョギングなどのより一般的な公園利用に対応する園路と、自然観察や環境学習などの自然に親しむ利用に対応する園路を分類し、現況の地形や環境に合わせて幅員や構造もタイプ分けすることも検討する。	○現況山道を利用しやすい園路として活用する <ul style="list-style-type: none"> <li>・最小幅員の確保</li> <li>・観察ルートとしての最小限の整備</li> <li>・湿原環境の保全対策</li> <li>・除草、整地、簡易な土留め程度の整備</li> <li>・日照の確保</li> <li>・簡易な階段の設置</li> </ul>	 <p>園路 0.5～1.5m</p>  <p>林間園路（幅 70cm）</p>  <p>丸太階段</p> <p>撮影場所：泉佐野丘陵緑地</p>  <p>木道 1.0～1.5m</p>  <p>木道</p> <p>撮影場所：柵池高原</p>  <p>デッキ 1.5m～</p>  <p>デッキ</p> <p>撮影場所：兵庫県立やしろの森公園</p>
利用調整園路	○限定的利用：自然観察会、自然保護活動など 【自然観察会】 ・指導者の案内のもと、貴重な動植物や生息環境に関する観察会を開催する。 【自然保護活動】 ・貴重な動植物が生息する区域について、自然環境を保護、修復するための保護活動を、公園協議会を主体として行う。	○自然環境保護を優先した最低限の道とする <ul style="list-style-type: none"> <li>・最低限のルート設定</li> <li>・利用制限のための施設（柵など）の設置</li> </ul>	 <p>人止めの簡易柵</p> <p>撮影場所：泉佐野丘陵緑地</p>



### (3) 活動拠点施設周辺の検討

活動拠点施設周辺の、駐車場、バックヤード等の配置と、現況樹林（アラカシ林）の活用について検討した。

#### ① 駐車場

- ・ 駐車場は信太 5 号線からの景観に配慮して、道路から直接視認できないように現況樹林の緑の中に包まれるような形で配置する。
- ・ 大型バス（駐車スペース：W2.5m×L15～17m）の利用を考慮して、普通自動車の駐車区画を 7 台単位でまとめて配置する。
- ・ 駐車台数：約 30 台（普通自動車）

#### ② バックヤード

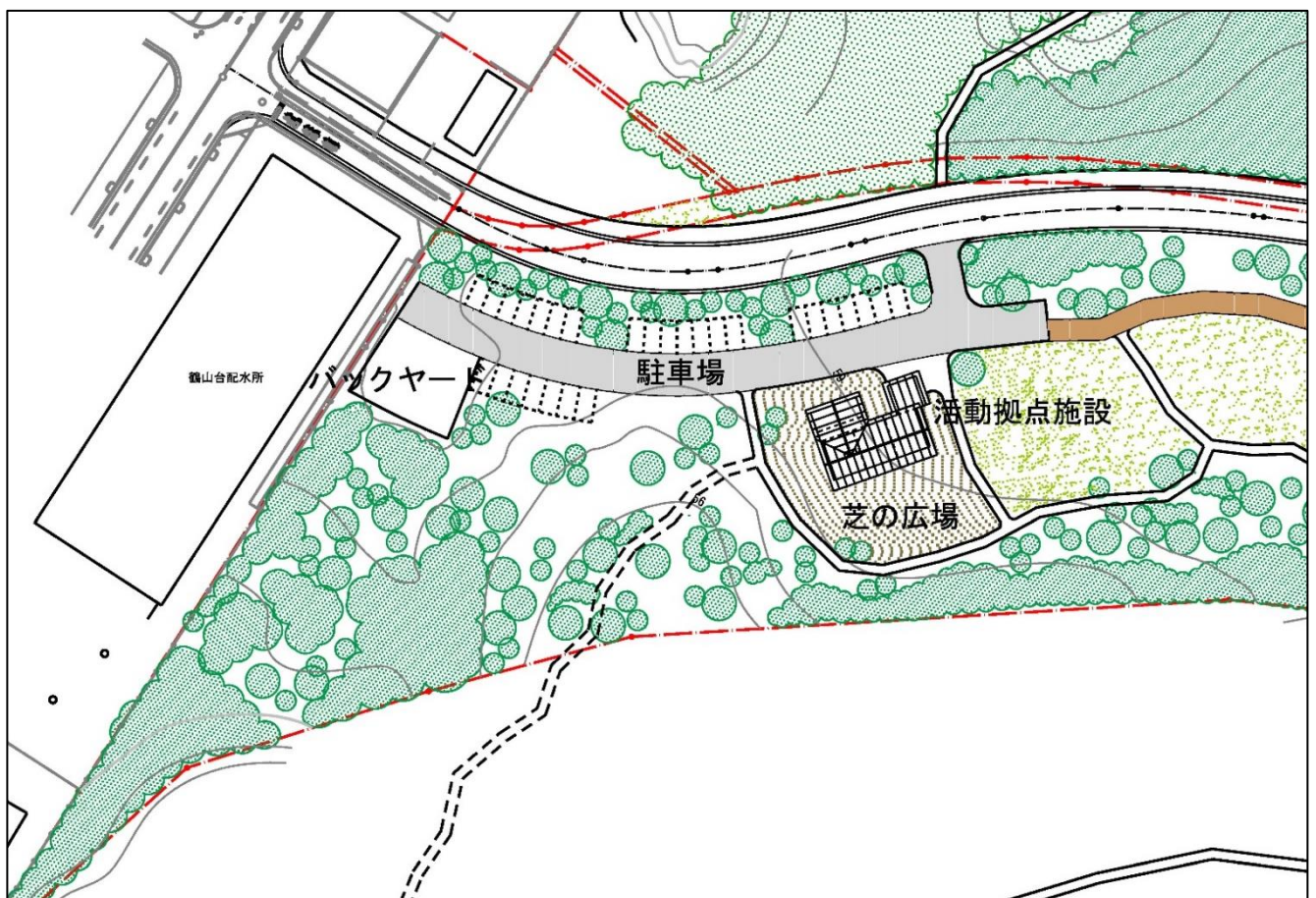
- ・ 公園管理用の機材や資材を保管するためのバックヤードを林間に確保する。

#### ③ 副園路

- ・ 惣ヶ池方面からの現況山園路を活用して、副園路の整備を検討する。

なお、活動拠点施設、駐車場、バックヤードなどの規模、配置等については、今後も継続して検討するものとする。

[活動拠点施設周辺計画図（案）]



## 2.目標とする植生像の検討

### (1) 現況植生調査

現況植生調査を行い、平成 22 年度に作成されている植生図を基に現在の植生図を作成した。

#### ・現況植生の概要

平成 22 年の植生図と比較すると、アカマツ-モチツツジ群集域の衰退縮小が著しく、尾根沿いに細切れになって分布している。これを埋める形でコナラ群落が分布を広げており、西側の府道沿い植栽アラカシ群落も分布を広げている。

### (2) 目標とする植生像の検討

基本構想（平成 27 年度）で取りまとめられている「目標とする植生像」を基本とし、平成 29 年度の植生調査を踏まえて目標とする植生像を検討した。

保全活動参加者と共に現況を確認し、基本構想の目標とする植生像に加えて、下記の目標とする植生像を設定した。

#### ①アカマツ-モチツツジ群集（尾根筋）

- ・尾根筋の主園路沿いに残るアカマツ林を活かして、アカマツ-モチツツジ群集の保全育成を図る。
- ・ただし、アカマツ林の保全育成に関しては、今後、落ち葉掻き等の育成活動についての検討を行う必要がある。

#### ②草原（主園路分岐点付近）

- ・主園路分岐点から谷筋の主園路西側について、現況はネザサが繁茂した状況となっている。
- ・浅い谷地形が残っており、両側の雑木林に囲まれた広い谷地形の中の草原の再生を目標植生とする。

#### ③雑木林-ツツジ低木林（谷筋、大野池への主園路沿い）

- ・現況のコナラを主とした雑木林の林床整備を行い、明るい雑木林と林床のツツジ低木林で構成された植生を目標像とする。
- ・コナラ等の雑木林については、今後、炭焼きやシイタケのホダ木等への利用など、里山的な活用についても検討するものとする。

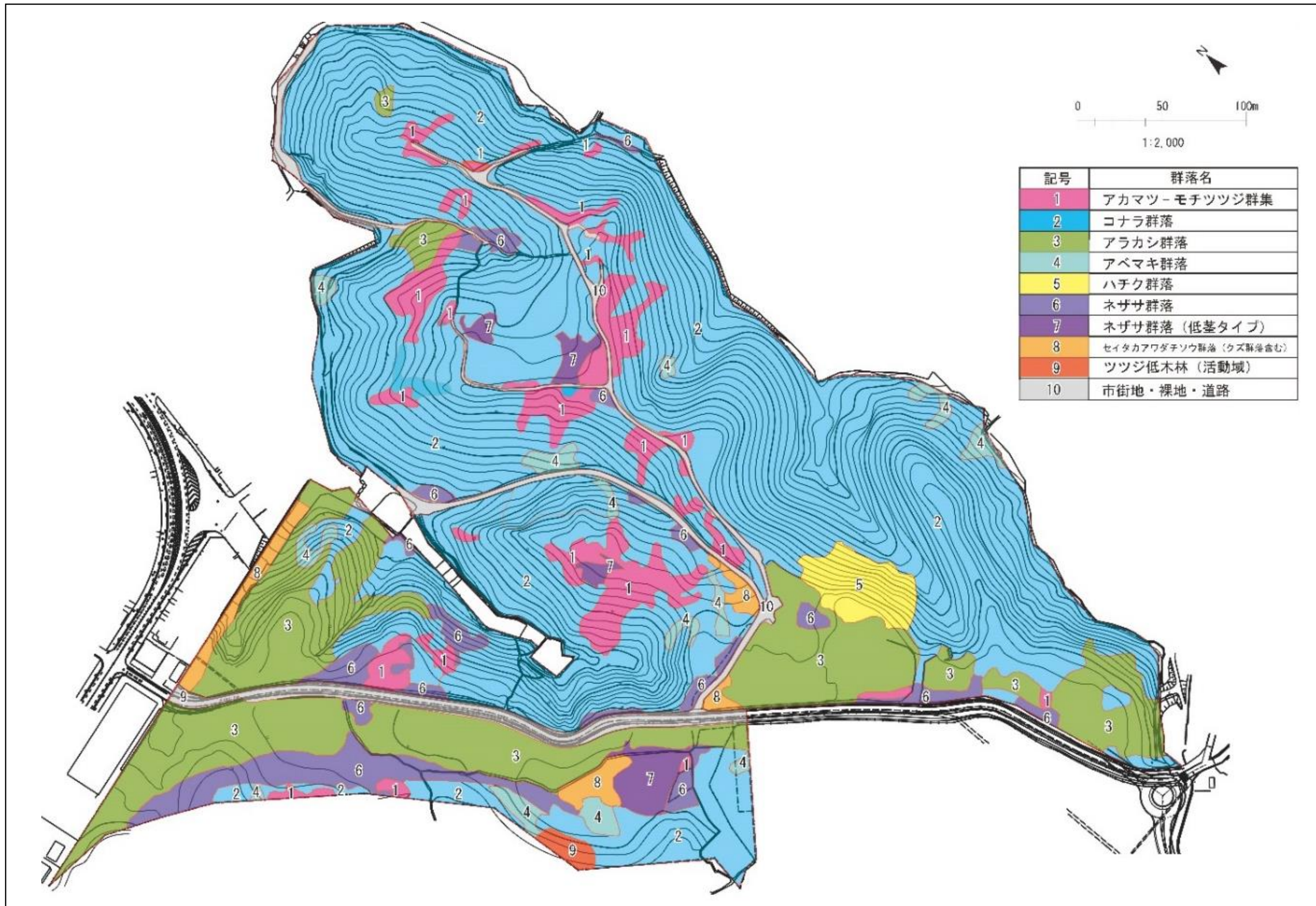
#### ④草原（民有地西側）

- ・民有地西側の斜面について、現況のコナラ林やネザサ群落を伐採し、昭和 60 年代頃までの草原を目標植生とする。

目標とする植生像の検討において、尾根筋より西側は里山的管理を行いながら目標植生を今後も継続して検討する区域とし、尾根筋より東側については生物生育環境を守ることを目標とする区域とすることを基本的な考えとする。



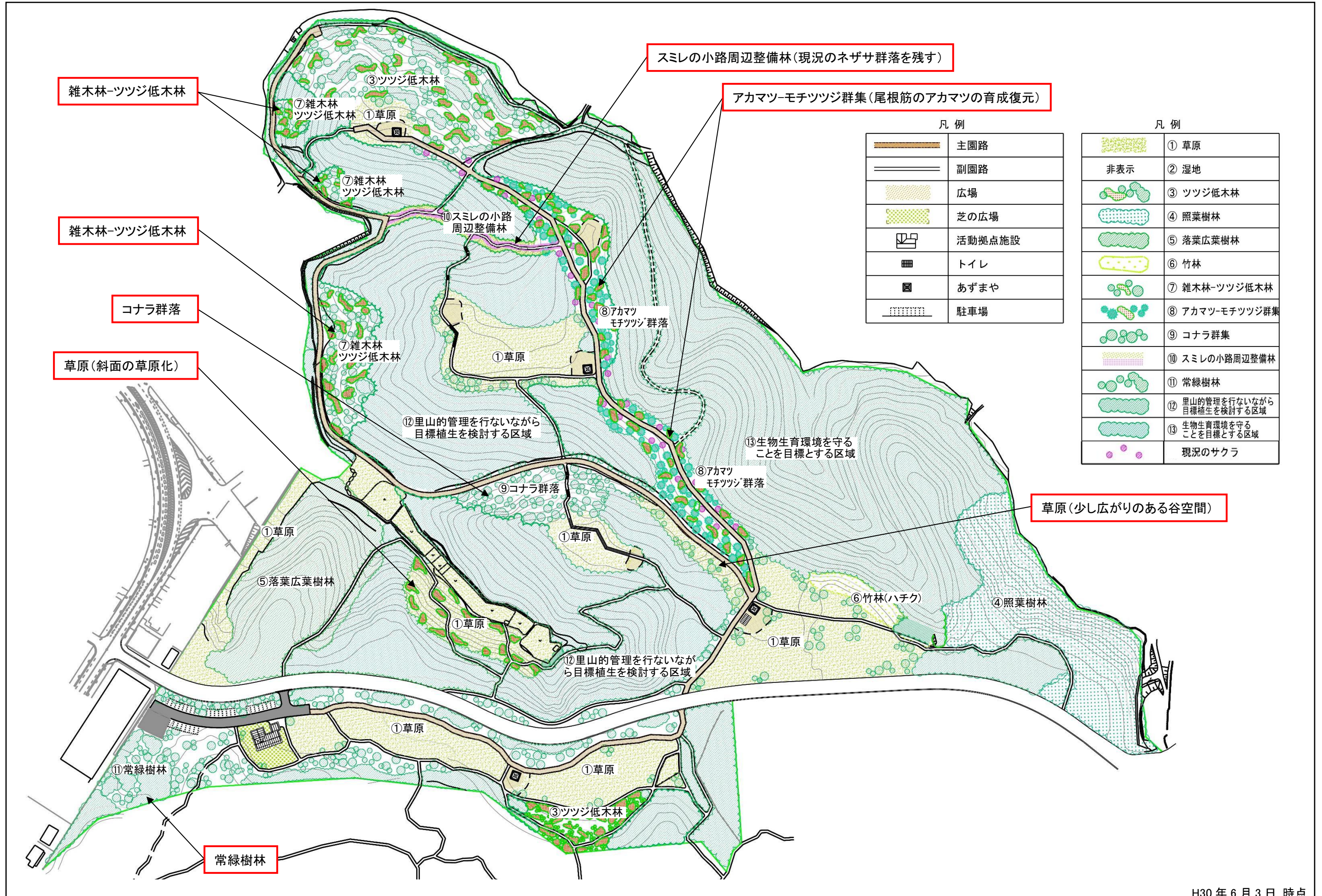
[現況植生図 (平成 29 年)]





[目標とする植生像]

     は平成 29 年度において追加提案した目標植生像



凡例

	主園路
	副園路
	広場
	芝の広場
	活動拠点施設
	トイレ
	あずまや
	駐車場

凡例

	① 草原
非表示	② 湿地
	③ ツツジ低木林
	④ 照葉樹林
	⑤ 落葉広葉樹林
	⑥ 竹林
	⑦ 雑木林-ツツジ低木林
	⑧ アカマツ-モチツツジ群落
	⑨ コナラ群落
	⑩ スミレの小路周辺整備林
	⑪ 常緑樹林
	⑫ 里山的管理を行ないながら目標植生を検討する区域
	⑬ 生物生育環境を守ることを目標とする区域
	現況のサクラ



[目標とする植生像のイメージ]

■目標とする植生像

番号	現況植生	目標とする植生像	目標とする植生像に向けた保全活動など
①	・ネザサ群落 ・アラカシ群落 ・コナラ群落	○草原 昭和 30 から 40 年代に見られた、キキョウ、オミナエシ、アキノキリンソウ、ホソバリンドウ、リンドウ、フモトスミレ等の野草が優先する草原。	■野草が優先する草原の復元・拡大 ・アラカシ、コナラ等の伐採 ・ネザサ類の刈取り
②	・湿原 ・コナラ群落 ・アラカシ群落	○湿原（水面を含む）—今回資料では表示していません。— 貴重種*を含む多様な動植物の生育生息環境としての湿原。 ※大阪府レッドデータリスト絶滅危惧種Ⅰ類やⅡ類等	■貴重種を含む多様な湿原の保全・復元・拡大 ・ネザサなど湿地外要素の刈取り ・湿地内及び周囲のコナラ、アラカシ等の木本類の伐採 ・湿地の自然環境のモニタリング、管理手法の検討
③	・コナラ群落	○ツツジ低木林 ツツジ類を主体とした低木林。	■雑木林からツツジ類を主体とした低木林への転換 ・コナラ等の木本類の伐採 ・ツツジ類を残す選択的な林床整備
④	・アラカシ群落 ・コナラ群落	○照葉樹林 シリブカガシ等の照葉樹林。	■コナラ群落からシリブカガシ等の地域性系統の照葉樹林への転換 ・植栽起源の常緑樹の伐採 ・シリブカガシ等の地域性系統の照葉樹の苗木の植栽
⑤	・アラカシ群落	○落葉広葉樹林 クヌギ、コナラ主体の落葉広葉樹林。	■アラカシ群落からクヌギ、コナラ主体の落葉広葉樹林に転換 ・アラカシ林の伐採 ・クヌギ、コナラ等の地域性系統の落葉樹の苗木の植栽
⑥	・ハチク群落	○竹林（ハチク） 林内の日照が確保された明るい管理された竹林。	■林内の日照が確保された明るい竹林を目指した管理 ・間伐等による竹林内の密度管理、周囲への竹林の拡大防止
⑦	・コナラ群落	○雑木林—ツツジ低木林 コナラ等の落葉広葉樹の林床にツツジが開花する明るい雑木林。	■ツツジの開花を促進する雑木林の整備 ・コナラ等の高木の間伐 ・ツツジ類を残す選択的な林床整備
⑧	・アカマツ-モチツツジ群集 ・コナラ群落	○アカマツ-モチツツジ群集 現況のアカマツ林を育成復元し、アカマツ林とツツジ類で構成される植生。 ※落ち葉掻きや土壌改良などのアカマツ林の育成活動が必要となる。	■現況アカマツ林の育成・復元 ・アカマツを残す選択的な伐採 ・林床の落ち葉掻き等のアカマツ林の育成管理 ・ツツジ類を残す選択的な林床整備
⑨	・コナラ群落 ・アベマキ群落	○コナラ林等落葉広葉樹林 林内の日照が確保された明るいコナラ林と林床のツツジ類で構成された植生。 ※ナラ枯れに配慮し、大径木となる前に間伐する里山的な利活用等を検討する必要がある。	■現況コナラ林の育成管理 ・常緑樹等の伐採 ・ツツジ類を残す選択的な林床整備 ※コナラは、大径木となる前にシイタケのホダ木や炭焼き等の里山的な利活用による伐採・利用を検討する。
⑩	・コナラ群落 ・アラカシ群落 ・ネザサ群落	○スミレの小路周辺の明るい落葉広葉樹林 園路沿いにスミレが咲く、コナラ等の落葉広葉樹林。 ※ネザサ群落も一つの植生として位置づけ、スミレの小道沿いはネザサ群落を残すことも今後検討する。	■スミレの小路周辺の落葉広葉樹林の育成 ・ツツジ類を残す選択的な林床整備 ・ネザサについては信太山の一つの植生として残すことも検討する
⑪	・アラカシ群落	○アラカシの常緑樹林 現況アラカシ林を活用した緩衝帯として機能する樹林。	■現況アラカシ林の活用 ・アラカシの伐採、枝払い
⑫	・コナラ群落 ・アカマツ-モチツツジ群集 ・アラカシ群落	○里山的管理を行いながら目標植生を検討する区域	■現況植生を踏まえて保全活動と共に目標植生を今後継続して検討する
⑬	・コナラ群落 ・アラカシ群落	○生物生育環境を守ることを目標とする区域	■湿地など保全管理が必要な場所を中心に、生物生育環境を守るための管理手法や施設整備を今後検討する